

リーディングDXスクール事業【実践事例】

箕輪町立箕輪西小学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【取組内容】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて

1 どの子も自己選択、自己決定できる環境設定①

音楽（4年）

① 足場かけ（細分化した段階的な選択式）のめあてと振り返りの活用

旋律の特徴を生かしたりコーダー奏

7月24日 (木)	めあて	陽気な船長のせんりつのおとくちようを生かして演奏しよう。	成果と課題を明確にするために、 自分の言葉でも振り返り	
	内容	・自分でめあてを決める。 ・動画などをもとに、自分のめあてに わかって練習する。	ふりかえり①	ふりかえり②
	どのように演奏したいか 船長の様子や曲想を考 えて書く	今日の自分のめあて	できたことをチェックしよう。	今日がんばったことや 次がんばりたいこと を書く。
		前半をはずむようにふこう	https://docs.google.com/forms/d/1FAIpQLScP8Fzq-QQ5zA7hKvclmcPufMktD3z5sP-SRQm5dnylytVksform2uscst_link	前半を完成ではないけど引けるようになったので良かったです。
		前半をはずむようにふこう	https://docs.google.com/forms/d/1FAIpQLScP8Fzq-QQ5zA7hKvclmcPufMktD3z5sP-SRQm5dnylytVksform2uscst_link	前半と後半の歌き方のうちがいの他の
		前半と後半の感じを覚えて通して	https://docs.google.com/forms/d/1FAIpQLScP8Fzq-QQ5zA7hKvclmcPufMktD3z5sP-SRQm5dnylytVksform2uscst_link	前半と後半の歌き方のうちがいの他の
		正しい音でふけるようになる	https://docs.google.com/forms/d/1FAIpQLScP8Fzq-QQ5zA7hKvclmcPufMktD3z5sP-SRQm5dnylytVksform2uscst_link	アの 次は
		前半と後半の感じを覚えて通して	https://docs.google.com/forms/d/1FAIpQLScP8Fzq-QQ5zA7hKvclmcPufMktD3z5sP-SRQm5dnylytVksform2uscst_link	前半
		正しい音でふけるようになる	https://docs.google.com/forms/d/1FAIpQLScP8Fzq-QQ5zA7hKvclmcPufMktD3z5sP-SRQm5dnylytVksform2uscst_link	後半

足場かけのめあて

Google Formsで自分の進捗確認
(足場かけの振り返り)

- できるようになったことにチェックをしましょう
- ☒ 正しい音でふけた
 - ☒ 前半をはずむようにふけた
 - ☒ 後半をなめらかにふけた
 - ☒ 前半をはずむように、後半をなめらかに通してふけた
 - ☐ 後半の下のせんりつをふけた
 - ☐ 後半の下のせんりつをなめらかにふけた
 - ☐ 自分の演奏を自分できいてチェックできた
 - ☐ 友だちと合わせてふけた
 - ☐ 自分がめざす音の感じを出してふけた

- ・足場かけのめあてや振り返りは、自分で考えづらい子どもにとってはとても有効。
- ・足場かけのめあてや振り返りにより、学習の見通しや自分の学習進度等を確認できる。
- ・めあてを自己選択、自己決定し、学習の見通しが持てると、粘り強く取り組む姿や自分の学習を振り返る姿、次時の学習へとつなげていく姿がより多く見られえるようになる。
- ・自分の言葉でも振り返りを入力すると、自分の学びの成果と課題がより明確になる。
→ ICTの活用により、教師が個々の学びの様子を確認しやすくなる。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

箕輪町立箕輪西小学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【取組内容】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて

2 どの子も自己選択、自己決定できる環境設定②

② 追究できる環境の幅を広げるための工夫

既習の学びが分かる掲示物
(旋律の特徴がわかる楽譜等)

外ノーム等の具体物の用意

「めあての共有化」
(ICTやボード等の活用)演奏ス「ード」が通常とゆっくりの範奏
と伴奏動画等の準備…「クラウド」の活用

- ・ 内容（何を）と方法（どのように）の見通しがあると子どもは追究できる。⇒ 個別最適な学びでは学習環境や掲示物が重要
- ・ 一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供するのが教師の役目

3 個別の学びの成果を協働に持ち込む適切な場面設定

教師が意図的に個別の学びを協働的な学びの場面に位置付ける

A 児の学び



個別の学び…①動画(お手本)→正しい旋律の確認
②動画(伴奏)→自分のリーダーの音の確認



個別の学び…③動画(ゆっくり)→指使いの確認
④動画(外ノーム)→正しいテンポで吹く練習



教師の出…子どもの学習進捗状況を確認後、**グループ学習を促す**。(子どもが見通しをもっているかを確認)



協働的な学び…演奏後、自分の学びを語る。意見交換により、自分の追究を客観視することにつながる。



協働的な学び…一通り練習し終わっても「もう一回合わせてみる？」と次の学びを考える姿へ。

- ・ 教師の適切な出により、個別の学びの成果を協働に持ち込む。(子ども同士の対話を促す) 協働することで自分たちの学びを客観視したり、友だちの考えを関連付けて自分の考えを深めたり、次の学びを考えたりする姿が見られた。
⇒ 学習を調整しようとしている姿へ

リーディングDXスクール事業【実践事例】

箕輪町立箕輪西小学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【取組内容】 情報活用能力の育成…箕輪町教育DX推進センターによる町内 5 小学校 1 中学校へのサポート

箕輪町教育DXセンター

- ・センター長（町教委学校教育課長兼務）
- ・町教委 ICT総括支援員
- ・町教委 ICT支援員
- ・学びの改革サポートティーチャー（県教委学びの改革パートナー校加配）
- ・町教委 情報担当
- ・町教委 指導主事

3つのサポート

①テクニカル

（基本的なICT操作や習得等の支援）

②セキュリティ

（情報モラル・デジタルリテラシー教育等の支援）

③子ども主体の授業づくり

（主体的・対話的で深い学びや教育DX等の推進）

- ・つけたい資質・能力を明確にした情報教育指導計画（小1～中3）の作成と見直し
- ・ICT支援員が箕輪町各校の担任と連携し、テクニカルやセキュリティを中心とした授業実践（情報教育指導計画に基づき、情報活用能力を育成するための授業実践）

令和6年度 箕輪町 情報教育指導計画

情報教育において育成を目指す資質・能力		小1	小2	小3	小4
【知識・技能】情報や情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報個人が果たす役割や責任等について理解し、情報や情報技術					
情報と情報技術を活用するための知識・技能	A パソコン、タブレット操作 ボタン、メニュー、リンク、検索	・タブレットの電源ON・OFFの仕方	・パソコンに慣れる ログインとログアウトの意味と方法	・検索の仕方を知る インターネットを使った調べ学習【総合】	・作成物等の共有
	B 入力 文字(ソフトキー、キーボード)	パスワード入力	・キーボードタイピング (ローマ字入力練習開始) ・漢字の変換入力をする ・文字の消去、修正の仕方	・キーボードタイピング (ローマ字入力練習開始) ・漢字の変換入力をする ・文章作成【ローマ字入力】	ひらがなと漢字 ボードからローマ字入力
	C 入力 手書き、図形(マウス・ペン・指)	メモアプリなどを使っての手書き入力	手書きで文 【Slide・C・E】	マウスやタッチペンなど	
	D カメラ 写真、音声、ビデオ	タブレットで、育てている植物の写真撮影（題材：アサガオなど・園芸：作品撮影）	写真を撮影・活動の撮影・発表・評価		
	E 整理分析 表、グラフ、図				



ICT支援員との授業
一年生：初めて使うタブレット端末。持ち方や電源の入れ方を学ぶ学習



ICT支援員との授業
三年生：写真やカード、付箋を仲間分けし、名前を付ける学習

【学びに向かう力・人間性等】情報や情報技術を活用し効果的に活用し

情報モラルと責任・行動	Q	R	S
情報モラルと責任・行動	情報を多面的・多角的に吟味し、その価値を見極めていくこととする態度	他人のパスワードを見たり、自分のパスワードを見せたり、教えたりしない	他の考え方に触れ、なぜそうなのかわかるのかを知ろうとする
	情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度	友だちの写っている写真やビデオを勝手に利用したり、個人情報勝手に人に伝えたりしない	いろいろな考え方があっても、それを比較しようとする
情報モラルと責任・行動	デジタルシチズンシップ学習（デジタル市民として、どのような態度で振舞っていくことがよいのかを自分で決めていく力の育成。）		ゲームをするときの自分で作る決まり事



ICT支援員との授業
四年生：自分や他人のアカウントの意味や役割について学ぶ学習

リーディングDXスクール事業【実践事例】

箕輪町立箕輪西小学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【取組内容】 校務DX ～ ホワイトボードツールを活用した授業研究会 ～

授業の流れを
簡潔に入力活動内容だけ
でなく、授業で
使ったワーク
シートなどもい
れることができる

授業の流れを簡潔に入力

時間	学習活動
15分	①ドリルの仕方の確認
15分	②問題のポイントについて話し合う。
15分	③ドリルを解きながら、それぞれのドリルのポイントを確認する。
15分	④ドリルの解法について話し合う。
15分	⑤実際にドリルを解きながら、ポイントを確認する。
15分	⑥ドリルの解法について話し合う。

（ここに入力できます）

中心的にみていた子ども
の姿について入力質問したいことを緑の
付箋で入力したり、
研究会の中で議論
や考えを灰色の付箋に
書き留めたりするなど、
進んで活用する
先生の姿も。授業全体でよかったところをオレンジ、
改善点を青の付箋で入力

成 果

- 短時間で、先生方の子どものとらえや授業の見方を共有し合える。
- 付箋を移動することで、考えや意見を簡単に整理できる。
- 考えや意見が出しやすくなり、データとしても残せ、いつでも見返せる。
- 授業で活用するツールを授業研究会で用いることで、教職員の研修の時間を減らせる。

リーディングDXスクール事業【GIGA×情活能力】

箕輪町立箕輪西小学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【GIGA×情活能力】 子どもが主体的に必要な情報を選択、収集、判断するためのスライドの活用

<考察>

1. 教師の願い(情報活用能力の着目点)

子どもたちが、教師の声がけがなくても、自ら課題を選び、必要な情報をスライドに沿って調べたり考えたりしながら学習を進めること

2. 支援

・自由な進捗で学習を進めることに特化した授業の動線が見えるスライドの活用



・課題や課題解決のための動画や音声、アプリ等を一つにまとめたもの

3. その支援の結果

- ・教師が詳しく説明しなくても課題を把握して学びに取り組むことができた。
- ・課題に必要な動画や音声、アプリ等はリンク機能でワンクリックでアクセスできるので、どの子どもにとっても扱いやすくなった。
⇒必要な情報を選択したり、収集したりすることがしやすくなり、進んで調べたり考えたりすることにつながった。
- ・小課題ごとに教師がフィードバックをすることで、子どもの理解度等を再確認でき、子どもへのフィードバック支援が行いやすくなった。
⇒協働的な学びへつなげやすくなった。

英語（6年）

1時間の授業で開く全てのスライドを一つに集約化

New Horizon ⑥ ~ Unit 3: My summer vacation.

単元めあて 過去のできごとを伝え合ったり、書いたりする

Stage ① 過去のできごとについて話す時の必要な言葉を確かめよう(2時間)
めあて: いろんな「過去のできごと」についての会話の内容を理解しよう

Stage ② 週末にクラスメイトたちが何をしたのかを確認めよう(3時間)
めあて: お互いの週末に何をしたかを伝え合おう

Final Stage 夏休みの日記を書こう(3時間)
めあて: 自分が夏休みにしたことをふりかえて、日記に書こう

全	単元紹介	□ ニックと修平旅行の話をしよう。覚えたことをメモに書こう
1.1	Let's Practice	□ QuizletやPicture Dictionaryを使って、「過去形」を学ぼう
1.2	Let's Listen ①	□ 音声を聞いて、教科書の p. 28 に線を描こう
1.3	Let's Listen ②	□ 音声を聞いて、教科書の p. 29 に聞き取れた言葉を書こう
1.4	Let's Write ①	□ ワークシートを使って練習しよう
	Mystery Check ①	□ めあてを達成したかどうかを確認めよう
	Advanced (+)	□ いざ！読解コーナー



自分の必要な情報にアクセスし、進んで調べる子ども



子どもの理解度を確認し、フィードバック支援をしているALT

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

箕輪町立箕輪西小学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】 自他の進捗確認と振り返りができる進捗表と多様な形成的・総括的評価の活用

<考察>

1. スプレッドシートを用いた自分の課題が記録できる進捗表

- ・教師のフィードバックが終わった課題の状況を記録できる。
- ・子どもは、小課題ごとに「これから」「取組中」「完了」「聞きに来てOK」を選択する。
- ・スプレッドシートをスクリーンに同期しておく。子どもはスクリーンを見るだけで、自他の進捗を確認することができ、より協働的な学びへつながりやすくなった。
- ・スプレッドシートのタブから「今日のめあて」と「振り返り」へアクセスできるようにしたこと、自分の課題を記録したら、すぐに具体的なめあてと振り返りを書くことができるようになった。
- ・この進捗表を共同編集できる形にすることで、記述に不安感がある子どもは友だちの記述を参考にしながら記述できるようになった。

2. 多様な形成的・総括的評価「Mastery Check」

- ・「Mastery Check」→小課題の内容を理解しているか、正しく身についているか確認するためのプリント
- ・外国語をコミュニケーションの道具として、「伝えたいことを伝えることができるか」を評価するために活用することができた。

英語（6年）

スプレッドシートを用いた自分の課題が記録できる進捗表

Your name	1.1	1.2	1.3	1.4	
1	完了	完了	完了	これから	
2	聞きに来てOK	完了	完了	取組み中	
3	聞きに来てOK	聞きに来てOK	聞きに来てOK	聞きに来てOK	
4	完了	完了	完了	完了	
5	完了	聞きに来てOK	聞きに来てOK	聞きに来てOK	

上記のシートのタブから「今日のめあて」「振り返り」へアクセス

Stage ①	Stage ① 振り返り	Stage ②	Stage ② 振り返り	Final Stage	Final Stage 振り返り
1	Stage ①の学習で「いろんな「過去」の過去」についての会話の内容を理解しよう。	2	Stage ②の学習で「いろんな「過去」の過去」についての会話の内容を理解しよう。	3	Final Stageの学習で「いろんな「過去」の過去」についての会話の内容を理解しよう。
2	History Checkをやって終わった後、自分の学習状況を記録しよう。	3	History Checkをやって終わった後、自分の学習状況を記録しよう。	4	Final Stage Checkをやって終わった後、自分の学習状況を記録しよう。
3	1.1のビデオの話を聞いて、国語の授業で習った文法を使って自分の話を作ろう。	4	1.2のビデオの話を聞いて、国語の授業で習った文法を使って自分の話を作ろう。	5	1.3のビデオの話を聞いて、国語の授業で習った文法を使って自分の話を作ろう。
4	1.4のビデオの話を聞いて、国語の授業で習った文法を使って自分の話を作ろう。	5	1.5のビデオの話を聞いて、国語の授業で習った文法を使って自分の話を作ろう。	6	1.6のビデオの話を聞いて、国語の授業で習った文法を使って自分の話を作ろう。

多様な形成的・総括的評価「Mastery Check」

「Mastery Check」

- ・評価基準に則って子どもと1対1のフィードバックができる。
- ・音声を聞いて回答するもの、動画を見て回答するもの、Googleフォームで作成したテストで答えるもの等がある。
- ・「実際の会話の様子を動画で撮影して投稿する」「人に説明する資料を自由に用意して発表する」といったものもある。

Mastery Check ~ Stage 2

身近な日本の場所について【簡単な発表】を行うことができる。

1 聞くこと・Listening

音声を聞いてそれぞれの質問を答えよう。

Your score: ____ / 80

達成度 50点以下 60点 70点以上

2 話すこと・Speaking

デジタル教科書にある動画を観て、ある都道府県の発表動画をとうろう。

達成度 発表動画が1つ以上見えている。 発表動画が2つ以上見えている。 発表動画が3つ以上見えている。

リーディングDXスクール事業【GIGA×教科】

箕輪町立箕輪西小学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【GIGA×小・英語】子どもたちの学びやすさに視点をのいたスライドの活用

<考察>

1 単元 Unit6 Save the animals.
(東京書籍 NEW HORIZON 6)

2 単元目標

絶滅が危惧されている生き物への理解を深めるために、それらの生き物の特徴や住みか、直面する問題や解決方法について、聞き取ったり伝えたりすることができる。また、それらについて例文を読んだり、例文を参考に書いたりすることができる。

3 ICT（GIGA環境）活用の特性・強みを生かした具体的な学習指導の工夫・改善

(1)ICT活用の特性・強み

・リンク機能を使えば、短時間で課題に必要な動画や音声等にアクセスできること

(2)スライド作成における具体的な工夫・改善

- ①教師の視点→子どもたちの学びやすさ
- ②学びやすさ→わかりやすさ、見やすさ(シンプルに)学習の見通し、選択の幅、色分け、矢印等
- ③授業と個別の学びの動線（流れ）が見えるスライドをそれぞれ1つに集約し、リンク機能を使ってそのスライド同士をつなげること
- ④自己選択、自己決定の幅を広げる
 - ・授業の動線（流れ）がわかること
 - ・子ども一人一人が自分の課題を追究できるよう選択できる幅を広げること
 - ・段階的に難易度を上げていくこと
- ⑥個別の学びを協働的な学びにつなげる

英語
(6年)

全体の学び

個別の学び

全体の学び

授業（ステージ2）の動線（流れ）やめあて等がわかるスライド

Stage ②

めあて: 選んだ動物の特徴や住みかを伝えるために必要な表現を選び、練習しよう。
達成目標: 動物の特徴を正しく説明し、その住みかを伝えることができる。

2.1	Escape Game	脱出ゲーム! ヒントを使って、閉じ込められた動物たちを救おう~!
2.2	動物の特徴	Pict.Dict.を使って、動物の特徴を表す言葉を見つけて発表しよう~!
2.3	動物の住みか	動物とそれぞれの住みかをマッチして発表して発表しよう~!
2.4A	【英単語】をまだ練習したい人におすすめ	Listen & Connect
2.4B	【読む力】を向上させたい人におすすめ	言葉探し: 住みか
2.4C	どれだけ理解できたか試したい人向け	NHK for School n.33
2.5	自由選択	このリストから自分の学習に役立つ活動を選んでみよう。
Mastery Check ②		動物の特徴を正しく説明し、その住みかを伝えることができる。

1つの活動を選んでみよう

【英単語】をまだ練習したい人におすすめ

A 英文練習
動物の特徴と住みかに関する言葉や文を練習しよう。

B Listen & Connect
聞いて練習
音声を聞いて、生き物とその特徴や住みかを線で結ぼう。
このワークシートを取りに来てください

C Pair Talk (動物紹介)
「Listen & Connect」で紹介された情報を4人の友だちと先生1人に伝えてみよう。
どれだけ理解できたか試したい人向け

【伝える】練習をしたい人におすすめ

D 言葉探し: 住み家
パズルの中からすべてのすみかの名前を見つけましょう。
このワークシートを取りに来てください

E 珍しい動物たち
文章を読んで、それぞれの動物の特徴と住みかについての質問を答えよう。
このワークシートを取りに来てください

NHK for School #33
-Where do lions live?-
動画を見て、関連する活動をして完了しよう。
このワークシートを取りに来てください

個別の学びと協働的な学びの一体化

個別の学びで活用するスライド